

各位

2023年1月4日

会社名 積水化成品工業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 柏原 正人  
 (コード：4228 東証プライム市場)  
 問合せ先 取締役専務執行役員 コーポレート戦略本部長  
 佐々木 勝巳  
 (TEL 03-3347-9711)

## “積水化成品グループ100年ビジョン”の一部改定について

積水化成品工業株式会社(本社：大阪市北区西天満2-4-4 社長：柏原正人)は、創立100周年を迎える2059年に目指す姿「積水化成品グループ100年ビジョン」を一部改定し、経営理念の体系化、理念体系内における上位概念の一部改定、および新たに2030年に目指す事業の方向性「Target 2030」を制定しましたのでお知らせします。

### 1. 改定の背景

「積水化成品グループ100年ビジョン」は、2009年10月に策定し、経営環境変化に伴い2015年10月に一部見直しを行いました。現在、将来の予測が困難な「不確実性の高い時代」に突入し、デジタル技術革新や価値観の多様化など、これまでにないスピードで大きな変化が発生する時代を迎えています。このような時代であるからこそ、私たちは改めて「原点」に立ち返る必要があると考え、100年ビジョンの改定について、経営理念や創業の精神にまで遡って社内議論をし、各種の改定を実施しました。

#### 企業の「存在意義」

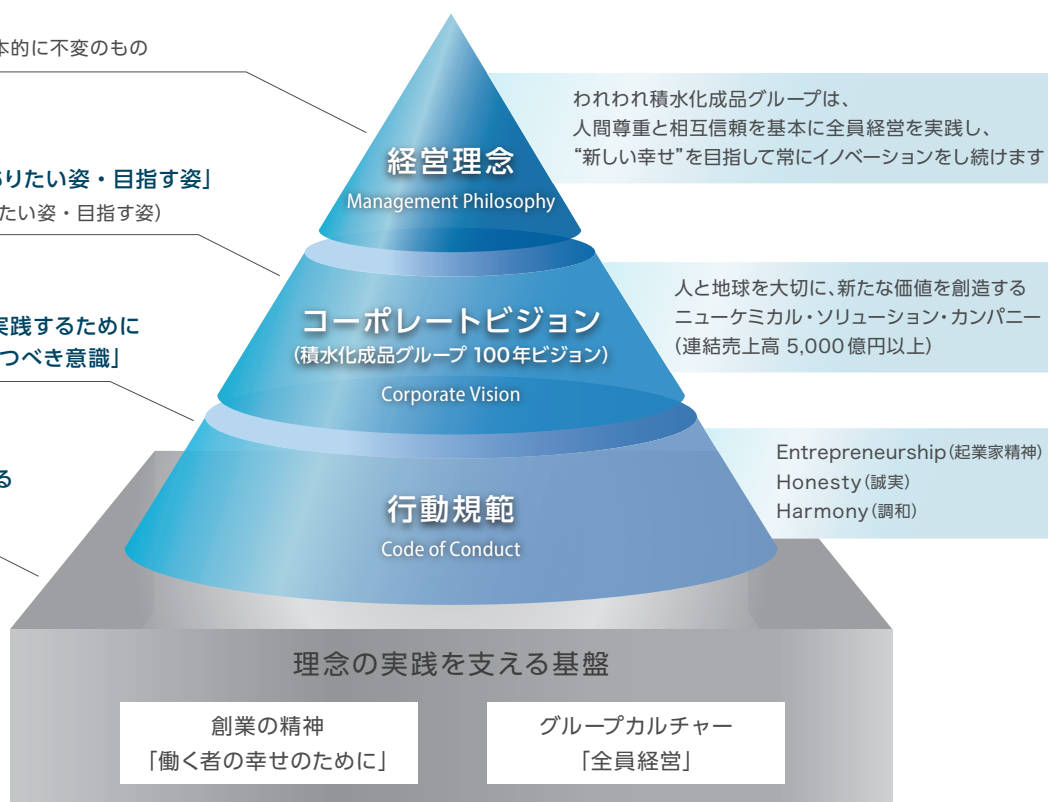
最上位概念であり基本的に不変のもの

#### 理念に基づいた「ありたい姿・目指す姿」

(創立100周年のありたい姿・目指す姿)

#### 理念やビジョンを実践するために 「とるべき行動・もつべき意識」

#### 理念の実践を支える 大切な価値観



## 改定内容

### ■ 経営上位概念を体系化しました

未来の不確実性が高まる時代だからこそ、改めて「原点」に立ち返る必要があると考え、経営の上位概念を見つめ直しました。企業の存在意義である経営理念は不変としつつ、これを最上位とした理念体系として改めて定義しました。

### ■ コーポレートビジョンを改定しました

コーポレートビジョン

**人と地球を大切に、新たな価値を創造する  
ニューケミカル・ソリューション・カンパニー**

創業時からのDNAである「人を大切にする精神」、従来注力してきた「地球環境への配慮」に加え、「新たな価値」を創造し、「化学の力で環境・社会課題を解決する」ことで持続可能な社会の実現に挑戦し、当社グループの持続的成長との好循環を生み出していくという強い意志が込められています。

### ■ 行動規範を改定しました

行動規範

Entrepreneurship	<b>起業家精神</b> 革新的なビジネスモデルや素材開発など、新たな成長機会を追求する高いモチベーション、独創的な発想、創造意欲、高い独立心、リスクに対して果敢に取り組む姿勢を大切にします。
Honesty	<b>誠実</b> 一人ひとりが誠実であることはもちろん、法令遵守をはじめ、社会的責任の遂行と企業倫理を実践します。
Harmony	<b>調和</b> 人との調和、社会との調和、地球環境との調和を大切にします。

従来 of 行動規範をベースに、経営理念とコーポレートビジョンを踏まえつつ、グローバルに広がるグループ員への理解と浸透を強く意識し、一言で分かりやすく明快な表現に改定しました。

### ■ 2030年に目指す事業の方向性「Target 2030」を制定しました

目指す事業の姿は、不確実性が高い状況下で、より近未来をターゲットに描くべきという考えに至り、2059年の売上高目標は不変としつつも、2030年に目指す事業の方向性を「Target 2030」として制定しました。

## 2. 2030年に目指す事業の方向性「Target 2030」

### ■ 「Target 2030」の位置付け

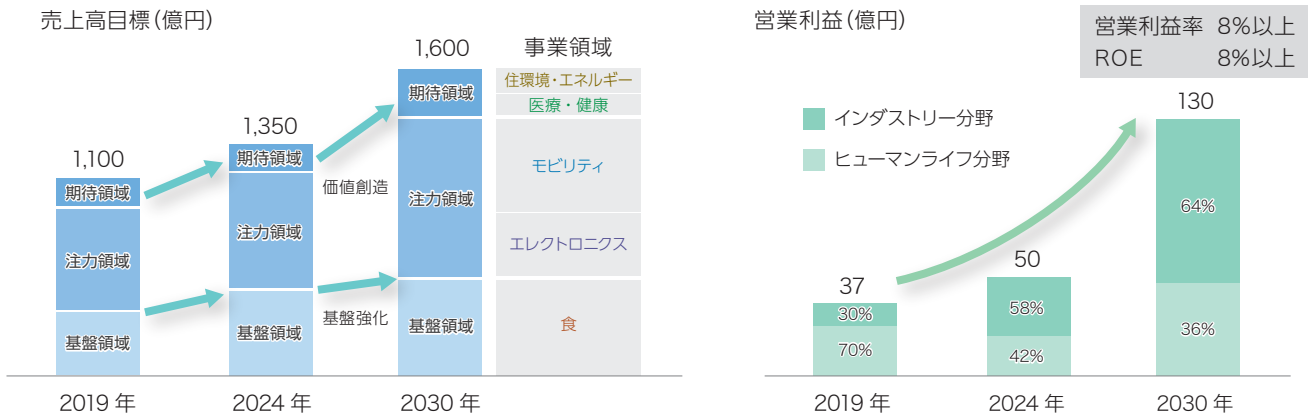
2059年の目指す姿「積水化成品グループ 100年ビジョン」の実現に向けて、2030年に目指す方向性です。中期経営計画「Spiral-up 2024」は、「Target 2030」を達成するための経営計画です。



### ■ 基本方針「持続可能社会への貢献」と「持続的な企業価値向上」の両立を実現する



## 3. 定量目標



※インダストリー分野：モビリティ、エレクトロニクス、医療・健康 ヒューマンライフ分野：食、住環境・エネルギー  
※新型コロナウイルス感染症以前の2019年度をベンチマーク年度としています。

## 4. 基本戦略






- ① 高収益体質の追求による企業価値向上
- ② 持続的成長を支える ESG 経営の推進

### ① 高収益体質の追求による企業価値向上

事業ドメイン



5つの重点事業領域

<b>住環境・エネルギー</b>	<b>期待領域</b>	人々の暮らしの安全を守り、持続可能で魅力ある生活環境づくりに貢献する。再生可能エネルギー分野への製品提供を進め、カーボンニュートラルの実現に貢献する。	
<b>医療・健康</b>		メディカル・ヘルスケア領域における社会課題、変化に応じたニーズに対し、高付加価値の素材から加工品を開発し、グローバルに新たな価値創造に貢献する。	
<b>モビリティ</b>	<b>注力領域</b>	自動車に限らず、あらゆる乗り物に向けて軽量化と快適性向上に貢献するとともに、それを構成する部品物流の資材ならびに効率化で環境価値向上に貢献する。	
<b>エレクトロニクス</b>		高度通信機器、電子部分野において、機能性材料、構造部材、梱包資材に至るソリューション提案によって産業の発展に貢献する。	
<b>食</b>	<b>基盤領域</b>	食の安全を守り、フードロス対策につながる製品提供により人々の「食」を支え、循環型社会に向けて環境貢献製品を開発し、サステナブルな社会へ貢献する。	

※インダストリー分野：モビリティ、エレクトロニクス、医療・健康    ヒューマンライフ分野：食、住環境・エネルギー

## ② 持続的成長を支えるESG経営の推進

当社グループが持続的に成長をする上で、重要度の高い課題の中から、特に優先して取り組むマテリアリティを特定しました。2030年までに解決すべき国際的な課題とゴールを定めた世界共通の目標「SDGs」(持続可能な開発目標)の達成に貢献します。

ESG項目	カテゴリー	マテリアリティ	推進項目	関連するSDGs
E	環境	環境貢献製品の創出と拡大	SKG-5R 推進 (サステナブル・スタープロダクトの拡大)	   
		気候変動対応	SKG-5R 推進 (省エネ・再生エネルギー活用によるカーボンニュートラル実現)	
		環境負荷低減	大気・水・廃棄物・有害物質の適正管理	
S	革新	ビジネスモデルの強靱性	オープンイノベーション、外部提携・協働取り組み	 
		DX	生産革新、業務革新、マーケティング革新、研究開発革新	
	人材	ダイバーシティ	多様な人材活躍(女性、シニア、外国人)	   
		働き方改革	健康経営推進、ワークライフバランス、多様で柔軟な働き方の諸制度	
		ワークエンゲージメント	働く者の成長を促進させる人事制度設計	
	品質・保安防災	安全・安心の提供	ゼロ災・品質クレームゼロ推進	 
G	ガバナンス	コーポレートガバナンス	内部統制、取締役会の実効性向上、グループガバナンスの強化	 
		コンプライアンス	問題の未然防止、報告体制の充実	
		リスクマネジメント	BCPの取り組み推進	

各推進項目においてはKPIを定め、効果的な取り組みを推進していきます。

例) 2030年度 環境目標・・・「環境貢献製品売上高比率」 50% 以上  
「CO<sub>2</sub>排出量削減」 △27% 以上 ※Scope1+2、2018年度比

以上